

1 主題名 「相手から嫌なことをされたときはどう反応するのがよいか」【B－6 思いやり、感謝】

2 教材名 「なんだろうなんだろう」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、「中学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編」の内容「B 主として人との関わりに関すること(6) 思いやり、感謝」の「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること」をねらいとしている。

中学生の成長段階では、自分と他人の違いを感じ始め、自分や他人を比較し、評価し始める時期である。他人にされた行動に不快感を感じ、怒りや悲しみをぶつけることも多くなってくる。一方で、他者との争いや面倒なことを避け、不快感を感じても我慢を続け、不安定になっていき、自分の損になってしまう行動をとってしまうことも少なくない。自他との関わりの中で、腹が立っても今後のことを考え、どうなっていきたいか、どんな不利益が起こるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。

本時では、自分に腹が立つ行動をされた場面を設定し、自主的に考え、判断する態度を養えるように授業を展開していく。また、自分の行為だけでなく、他者の行動理念や行動基準についても触れ、人間の多様性を理解するとともに、自身の考えを深めていきたい。

(2) 生徒の実態

実態調査 (9月6日実施、29人)

○嫌なことをされたときのあなたの行動はどれが多いですか。

- | | |
|--------------------|-----|
| ①大丈夫だよと言って自分からすぐ許す | 10人 |
| ②謝られたら許す | 17人 |
| ③なかなか許さない | 2人 |
| ④絶対許さない | 0人 |

○なぜ人は許さないことがあると思いますか。

【主な回答】

怒っているから、傷つくから、そういう性格だから、我慢の限界だから、モヤモヤするから
意地やプライド、譲れないものがあるから、信念や正義と違う行動をしたから
相手に分かってもらいたいから、反省してもらいたいから、同じ事が起きないようにするため

○すぐに許すことの良いこととは何だと思いますか。

【主な回答】

イメージが良くなる、いい人に見られる、
話がすぐに終わる、気まずくならない、引きずらない、また良い関係になる、仲直りできる、
憎しみがなくなる、すっきりする

実態調査として、内容項目に関連するアンケートを実施した。アンケートの結果からは、「嫌な行動をされたときのあなたの行動はどれが多いですか」の質問に、「自分からすぐ許す」と「謝られたら許す」の項目を選んだ生徒が多かった。また、許さない理由としては、「相手に反省してもらいたい」「分かってもらいたい」と考えている生徒が多く、すぐ許す理由としては、「関係を壊さないため」「イメージをよくするため」と回答している生徒が多かった。

これらのことから、本学級の生徒は、対人関係のもめごとをできるだけ起こしたくないと考えているとともに、相手に自分の気持ちを理解してもらいたいと考えている生徒が多いことが分かる。本時では、自分から許すことと相手に理解してもらうこと、それぞれのメリットを考え、社会の中で様々な対人トラブルに出会った際に、自ら判断して望ましい行動をとれるように、相手との対人トラブルの対応方法について考える授業を展開していく。

(3) 教材について

本教材は、許すことについて、「どうしたら許したことになるのか」「許せない状態が必要なときもあるのか」「半分許すことってできるか」など様々な視点で疑問を提示する教材である。

本教材を通して、本時のねらいである「思いやりの心をもって人と接すること」を達成するためには、それぞれの立場に立った議論が必要であると考え。そのため、導入段階では、主題に関わる意識調査の結果を提示することで、主題に対する価値観の違いを感じさせる。次に展開前段では、生徒の考えの根拠を問う発問により、他人に共感できるようにする。展開後段では、多面的・多角的に考える発問により、それぞれの立場から議論する場面を設定する。

これらの学習活動を通して、場面に応じて「すぐに許す」か「相手に理解してもらうか」を考えると共に、その行動が及ぼす結果についても深く考えられるように授業を展開していく。

4 指導の工夫

(1) 主題に対して問題意識を高める工夫

- ・ICT機器を活用して、本時の内容項目に関する、許せることと許せないことへのアンケート結果の学級分布を提示することにより、主題に対する生徒の関心を高める。

(2) 道徳的価値を計る工夫

- ・ICT機器を活用し、共有ワークシート上で考えを書かせることにより、他者の考えを共有しやすくし、自分の考えを深められるようにする。

5 本時の活動

(1) ねらい

思いやりの心をもって人と接していこうとする判断力を養う。

(2) 展開

	主な活動 ○発問 ◎主発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ㊦評価
導入	1 意識調査アンケートの結果を共有する ・次の行動は許す許さない 例：勝手に自分の消しゴムが使われる ・他人から嫌なことをされた時どうするタイプか	・どちらが多数派か2～3項目は、ずれると感じる。	・事前に実施した意識調査アンケートの結果をICT機器で共有を図る ・寛容な行動を取るタイプが多い中、「自分から許す」と「謝られてから許す」に分かれていることに着目させ、発問につなげる
展開	2 教材「なんでだろうなんでだろう」の概要を確認する ・どうなったら許したことになるのか ・許さないことが必要なときもあるのか ◎他人とトラブルになった時は自分から許す方がよいか、相手が謝るまで許さない方がいいかどのように考えますか 主題に関わる質問 考えの根拠を問う発問 3 議論する A：どんな時には、自分から許した方がよいか B：どんな時には、相手が謝るまで許さない方がよいか ○他人の考えを聞いて自分になかった考えはなにか 多面的・多角的に考える発問	・許すと伝えたとき ・会話を始めたとき ・【自分から】 ・関係を悪くしたくない ・めんどくさいから ・相手に気を遣わせたくない 【相手から】 ・反省して欲しい ・気に入らない ・相手が同じ過ち繰り返さないようにするため 【自分から謝った方がいい場面】 ・物を壊されたとき ・約束を破られたとき 【相手に分かってもらった方がいい場面】 ・何度も同じ嫌なことを言われた場合	・教材に掲載されている様々な「許すこと」に対する疑問を生徒に投げかける ・思い浮かばない生徒が多い可能性があるため、ニュースなどから想像しやすくする ・学級の意識調査から大きく分かれた意見を主発問にすることで、「許すこと」に対する意見を発言しやすくする ・発問に対する回答をICT機器を用いた共有ファイルに記入させることで、全体の考えを共有しやすくする ・共有ファイルから自分にはない考えを探させることで、多様な考え方に触れ、主題に対する考えを深めやすくする ・主発問の「自分から許した方が良い」の意見が多い場合、Bのテーマで議論させる ・グループで場面を考えさせることで、他人の考えを聞き、自身の考えを深める
終末	4 自己をみつめる ○他人とトラブルになった時、どのように行動するのがいいか	・相手の状況をよく考えて行動する。 ・感情的にならず冷静になって許すかどうか考える。	・授業を通じて、深まった考えを共有ファイルに記入させることで、他人の気付きや学びにも触れやすくし、より考えを深めやすくする ㊦相手の立場を尊重して、許すかどうか考えを記述している